

目次

I 歌物語論考

歌物語の始発と古代和歌——物語を生む和歌、物語が生む和歌——	3
「昔男ありけり」の分布——『伊勢物語』成立試論——	15
『伊勢物語』の成立と『古今和歌集』	29
『伊勢物語』モザイク説批判——「三元的成立の論」の検証を中心に——	57
『伊勢物語』惟喬親王章段の方法	83
御をちの大将なむ迎へて内裏へ——『伊勢物語』と歴史と「花桜折る少将」——	97
「ゐなかわたらひ」考	119
『伊勢物語』に見る東国	131
旅路のはて——『伊勢物語』東下りと「ゐなかわたらひ」——	141

『古今和歌集』から『伊勢物語』へ——感動の虚構、虚構の歴史——	153
「小野にまうでたるに」——『伊勢物語』の本文と表現——	177
『平中物語』の成立と『大和物語』——共通話とその影響関係——	201
『平中物語』の成立年代下限——『古今和歌六帖』の歌物語観を手がかりに——	217
『平中物語』における主人公像の形成——残欠説への疑問を起点として——	233
『平中物語』の構成と方法——歌物語の終焉——	249
『平中物語』の虚実——その作者と位相——	261

II 作り物語論考

「異空間」への招待	283
「月のみやこ」——『竹取物語』の異空間——	293
藤裏葉の翳り——藤裏葉巻完結説の再検証——	305

『源氏物語』の世界と歴史的時間——延喜・天曆准拠説との訣別——	321
源氏物語と史実	343
よろしきことにだにかかる別れの——桐壺巻と『史記』張丞相列伝——	353
紫の上の物語——「真木柱」巻と『落窪物語』——	371
いとねぢけたる色好み——薰像とその背景——	385
いろごのみの皇子——東屋と以後の卷々——	411
『夜の寝覚』末尾欠巻部断簡考——架蔵伝後光嚴院筆切を中心に——	423
などしつるをこがましとぞ——『夜の寝覚』の帝とそのゆくえ——	455
『源氏物語』と近代文学の始発——樋口一葉・尾崎紅葉を中心に——	483
初出一覧	507
あとがき	511

歌物語の始発と古代和歌

——物語を生む和歌、物語が生む和歌——

一

歌物語の始発点をどこにおいたらよいのだろうか。それはどのような性格をもつものとして出発したのだろうか。

古代後期に『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』が書かれ、そして読まれるかたちで、後に歌物語と呼ばれるジャンルに属する文字化された作品として既に存在していたのに対して、古代前期に歌物語が存在していたと認定すべきかどうかということになると、必ずしも一致した見解があるわけではない。『萬葉集』の物語的な構成の歌群を歌物語と言つてよいのか、あるいはその歌群の背景にあつたかもしれないものを歌物語とすべきなのか、記紀における歌謡を含む話は歌物語とすべきものなのか、その材源としての歌謡物語は存在したのか、ということになると、さまざまに見解が分かれていることは、知られる通りである。口承段階のものをも歌物語と認定するのか、あるいは文字に書かれたものをそう呼ぶべきなのか、ということについても、一致した見解をみない。

昭和十六年のものだが、

歌物語は、歌自身と及びこれに付随する作歌事情の説明とから成るのである。(中略)作歌事情を伝へてゐる歌にあつては、その総合体をもつて一つの全体と見るべきである。此処には地と歌との二部から成立し、(中略)